

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390500056		
法人名	株式会社グランツ		
事業所名	グループホームぽっかぽか花巻中央		
所在地	岩手県花巻市南万丁目1163-3		
自己評価作成日	平成27年12月17日	評価結果市町村受理日	平成28年5月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_ki_hon=true&amp;ji_gyosyoCd=0390500056-00&amp;PrefCd=03&amp;VerSiOnCd=022">http://www.kai.gokensaku.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_ki_hon=true&amp;ji_gyosyoCd=0390500056-00&amp;PrefCd=03&amp;VerSiOnCd=022</a>
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団 評価公表・研修グループ		
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1		
訪問調査日	平成28年1月19日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

明るく朗らかで親しみやすい雰囲気です。「ぽっかぽか」の名に相応しい事業所を心掛けている。「ご利用者様、ご家族様の願いを叶える」という理念の下、これまでの暮らし、本人の能力、趣味、意欲を活かし、役割や遣り甲斐、楽しみのある生活が送れるような支援を行っている。今年度は「利用者視点のケアの実現」と「介護技術の向上」をテーマに掲げ、利用者の安心や喜びにつながるケアを追求するとともに、職員へのスキルアップにも力を入れている。又、町内会に所属し各総会へ参加するほか、小中学校や町内会の資源回収への参加、町内運動会・地区の文化祭への見学や参加、地域の催し物へ外出する機会も多い。また小正月には地域の郷土芸能を施設で観賞するのが恒例になりつつある。夏にはチャリティイベントを開催し、近隣の中学校生徒や地域住民との交流の場を設けている。保育園児(七夕会)や民謡、踊り(敬老会、クリスマス会等)のボランティアによる慰問も行っている。併設の小規模多機能との日常的な交流もあり、体操やレクリエーション、創作活動への参加の他季節の行事も合同で行うことによりご利用者同士、職員間の親睦も深められるように取り組んでいる。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームぽっかぽか花巻中央」は、花巻中、若葉小、市文化会館、市図書館等が近接する市街地に立地するが、住宅地に存することから比較的静寂で恵まれた環境にある。建物は、2階建てで1階が小規模多機能、2階がグループホームとなっている。「願いを叶える」という会社の理念のほか、事業所独自で具体的な年度テーマを掲げ、目標に向けて日頃の実践に取り組んでいる。共用空間の居間兼食堂は、茶系統の色調で統一され、利用者の作品展示もあつて落ち着いた居住空間になっている。更に、介護の面では、利用者の意向や体調の変化が分かる独自の一覧表を作成して体系的に情報をまとめ、介護計画の策定、見直しに反映させている。また、地域と事業所との交流に力をいれ、南万丁目親交会の行事、保育園児、小中学生の訪問、地域の祭りなどへの参加などのほか、事業所が主催するチャリティを行っている。なお、この事業所は、職員のための育児短時間勤務制度の拡充などにより、平成26年3月、岩手県子育てにやさしい企業等の認証を受けている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念にあたる「願いを叶える」について入職した職員に丁寧に指導するほか、月例ミーティングにおいても「利用者主体のケア」について実践するよう努めている。認知症介護の基本も重要になっているので日頃の申し送り時やミーティングで話し合っている。	「願いを叶える」という法人理念のほか、当グループホーム独自で定める年度テーマがある。今年度は、職員全員で定めた「利用者視点に立ったケアの実現」と「チームの介護技術の向上」であるが、これを事務室への掲示や職員身分証への携行で周知している。また、専用ノートへの申し送りや月例ミーティングで実践状況を確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に所属し、町内の運動会、郷土芸能祭、文化祭、一斉清掃や資源回収や地域の総会に参加している。文化祭には作品の出品も行っている。農協や各企業のイベントにも参加している。	南万丁目親交会に加入し、町内会行事に参加するほか、町内会以外の行事、例えば、花巻祭りや農協の収穫祭のほか、産直や花巻ガスなど企業が行う催しにも参加している。逆に、「24時間テレビのチャリティーイベント」、小正月行事には保育園や花巻中の参加が見られ、相互交流がなされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学や申込みの時、運営推進会議、家族会の際に内部でのサービスの特徴、認知症の基本的知識やケアについてお伝えしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	併設の小規模多機能型居宅介護事業所と合同で2か月ごとに開催している。活動報告や実績報告、避難訓練や事故報告、勉強会報告等を行い、地域の代表者と情報交換をしている。事業所の運営と家庭での暮らしの違いなど話し合っている。	運営推進会議は、併設の小規模多機能と合同で開催されている。固定メンバーは行政区長、民生委員、包括支援センター、花巻中の福祉委員会、当施設の事務長・管理者・社員である。会議には、活動報告や事故報告などが取り上げられている。	ゲスト参加でも良いので、利用者、家族、消防、警察、市担当課、地域住民、法人本社の管理職など、多彩な方々から意見や助言をいただいて、会議の活性化が図られることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加してもらい意見交換をしている。運営上の疑問点はその都度担当者に確認している。困難事例の相談や介護保険以外のサービスについての情報をもらったりしている。	市役所の職員が運営推進会議に出席し、事業所の運営状況を把握し、意見等を頂けるようにしている。日常的に介護保険制度上の問題点や費用の取り扱い、介護認定に関する事項等について確認を取ったり、情報を得る等、連携が図られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員には入社時のオリエンテーションにてパンフレットを用いて説明し周知させている。日頃から玄関や扉の施錠はせずに職員は連携を図りながら利用者様への声掛けや見守りを行い、拘束は行わない姿勢を維持している。	身体拘束に関する外部研修に参加し、復命事項は月例ミーティング等で伝達研修を行い、職員間で理解を深めている。新規採用職員にはオリエンテーションで身体拘束しないケアについて十分に説明している。職員は日常的に見守りや声掛けを重視したケアに心がけ、日中の施錠は行っていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入社時のオリエンテーションにて虐待防止に関して学ぶ機会を持っている。また定期的に職員に聞き取りを行い見過ごされることがないように注意を払っている(振り返りシート)。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員が学ぶ機会を持てるようにしたいと考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはサービス内容、重要事項、料金等の説明を十分に行い、納得してもらった上で契約を行っている。また解約や改定の際にもご本人、ご家族の不安を解消できるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族会に参加してもらい、実績、活動報告、事故報告等をし意見を聞き取りしている。また苦情相談窓口を設けているほか、外部の苦情相談窓口についてもホーム内に掲示している。	意見箱は設置していない。管理者が苦情相談処理者になっている。解決後の書類は、本社の社長まで決済を得る形になっている。実績として、利用者・家族の意見で入浴機会を拡大したほか、利用者の様子を写真で送って欲しいというような詳細な要望にも応えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月例ミーティングや個人面談等で運営に関する意見を聴取し、幹部ミーティングにて職員の意見や提案等を出し、運営に反映させている。また出来る限り職員と共に業務につくことで現場の状況把握に努めている。	月例のミーティングのほか、本社の社長が来た際は、個人面談等で意見を聴取している。また、正社員3名で構成する幹部ミーティングで職員の提案等を運営に反映させている。具体例では、保育園の送り迎えがある職員の夜勤、早番、遅番などのシフト変更などを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	新人職員には職能評価を実施し、当人、管理者、運営者評価を明らかにして、個々の次なる目標を設定できるよう努めている。悩みや意見、提案を聞き入れる場としてスタッフに対するアンケートや個人面談を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は出来る限り職員と一緒に介護業務に当たり、一人一人の力量等を把握するように努めている。また月例ミーティングや内部研修会において知識やスキルの習得ができるようにする他、外部研修の情報も随時提供し参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に所属し開催される研修会に参加し意見交換をしている。またお互いのグループホームに訪問して過ごす交換研修にも参加している。		
<b>Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人、同居家族や親類、関係機関からご本人の困っている事や健康状態の他、楽しみや生活習慣などを把握するように努めている。職員には、ADLの把握にとどまらない、ご本人が安心できる環境と関係作りについて指導している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	最初の相談の段階で、誰が、どのように困っているのか、不安があるのか、そして何を求めているのか、さらにそれらの優先順位について話を聞くようにしている。また介護計画書には、ご本人とご家族の意向が反映されている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容が他の居宅介護サービス利用によっても解決可能と考えうる問題であれば、当法人内のケアマネージャーにも同席や相談を求めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	買い物、調理や盛り付け、食器の片づけ、洗濯物を畳むなどの家事仕事を利用者と共にしている。また、畑仕事、郷土料理、裁縫など生活歴を生かした取り組みを行い、お互いに学んだり支え合う関係が築けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃から面会の際や介護計画書の中で普段の生活や本人の状態についてお知らせし、その中でご家族の要望を聞いたり、家族で過ごすきっかけ（家族会の企画など）を作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族からの理解を得た上で今までの馴染みの方の面会、電話等を受け入れている。また、行きつけの理容店や商店、思い出のある場所へ出掛ける機会を設けるようにしている。	親戚や親しい知人の訪問を受け、個室やリビング等で旧交を楽しむことがある。また、地元の伝統のある祭りを見学に出かけたり、商店街の行きつけの商店で買い物をすることもある。事業所に定期的に理・美容師の訪問はあるが、馴染みの理・美容院の利用を希望する利用者には、職員が送迎の支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い利用者同士で外出したり、レクを行ったりできるように配慮している。また、職員が間に入ることでは話がスムーズにできる場合も多いため考慮している。併設の小規模多機能の職員や利用者との交流も日頃から行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループホームを退居された方について、必要に応じて家族や関係機関に状況を聞き、ホームの行事やレクに参加できるような関係づくりに努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴から想像したり、ご本人、ご家族とお話しし希望等を把握するようにしている。「利用者視点のケア」を目標に日頃の活動や介護方針について検討をしている。	利用者・家族から生活歴、希望等を聴取し、センター方式を参考にした様式に取りまとめ、日頃の活動や介護方針について検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント時には生活歴や過去のサービス利用についてをご家族、ご本人からも伺うようにし家族の了承を得て、他事業所からもサービス利用時の状況を聞き、把握するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	カードックスの記録用紙に一日の様子を記入し一週間ごとに見ることができるよう努めているほか、朝・夕の申し送りでその日の様子、月例ミーティングで一か月の様子を振り返り介護方針に反映させている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月例ミーティングで全職員の意見も取り入れた上でサービス計画書を作成している。修正の必要があればご本人、ご家族に相談し了承を得た上で改正している。計画書は毎月ご家族へ送付し、意見を伺っている。	情報収集を基にしてアセスメントを行い、ケアプランを立案し、実践している。月例ミーティングで、職員によるモニタリングを行い、カンファレンスを行ってプラン見直しにつなげている。定期見直しは6ヶ月に1回である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の申し送りノートを作り、ヒヤリハット、レクや過ごし方、介護方法についての詳細意見、ミーティングノートに特に変わったことを記入し、職員は勤務に入る前に目を通し、情報の共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院対応がご家族の負担になることも多いと考え、原則事業所で対応している。また、外出や外泊、家族がホームに泊まる事も出来る旨を伝えるようにし、本人と家族の個別のニーズにもこたえられるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議には区長・民生委員、市職員に参加してもらい、地域資源についての情報を得ている。また地域の運動会、文化祭などの行事等についても積極的に参加したり、事業所に保育園児やボランティアを招いて季節の行事を行うことも多い。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけの病院を継続する。また、必要に応じて協力病院等に変更する場合には、本人や家族に理由を十分に説明し了承を得た上で変更している。	「利用者の多くは以前からのかかりつけ医で受診しているが、協力病院等に変更する場合は、利用者・家族に説明し、了解を得て実施している。通院時の付添は、基本的に職員（看護師）が行い、利用者の状態を担当医に正確に伝達している。受診結果に変化があった場合は、電話や文書により家族に連絡している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当事業所の看護職員が日常的に健康管理に努めているほか、適宜かかりつけの病院の医師・看護師に相談し、適切な指示をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の相談員と連絡をとり経過の把握を行っている。また退院前のカンファレンスに参加し情報収集を行い安心して元の生活に戻れるように支援内容の検討、調整をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日常的に情報提供を行っているほか、入居時にはご本人が重度化した場合や終末期の意向について意思を確認するようにしている。終末期のケアについては、ご本人とご家族の意向を叶えられるようにかかりつけの医療機関に協力を依頼している。	看取りに関する指針は作成していないが、重度化した場合の対応マニュアルがある。入居時に事業所で出来ることを説明し、了解をいただいている。過去には家族の意向に応じ、看取りを行った経験がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修会にて、応急手当を学ぶ機会を設けているほか、急変時対応マニュアルを作成し、全職員が内容を把握するように努め、緊急時に備えているほか、定期的に見直しを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2階避難訓練を実施している。火災や地震時対応マニュアルを作成し全職員が内容を把握するよう努め、緊急時に備えている。地域との協力体制を築くことが今後の課題である。	事業所の設備は、緊急通報装置、スプリンクラー、消火器などが完備、調理場の火元はIH、備蓄は食料品を中心に3日分である。避難訓練は、年2回実施し、夜間想定訓練も行っている。	避難訓練について、夜間時や薄暮時間に行ってみるとか、近隣住民の参加を求めするなど、一層充実した訓練になるような取り組みを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	訪室、トイレやお風呂を利用する時など日常的なケアには利用者様のプライバシーに配慮している。業務連絡を行う場合にも利用者名など大きな声で言わないようにするなど配慮している。個人情報取り扱いには、ご本人やご家族の同意を得た上でやっている。	プライバシーの確保については、例えば、訪室の際、勝手に入らず声かけしてから入る、ドアを開けっ放しにしない、業務連絡等も実名でなくインシヤルで行う、指示等は大声で言わない、おむつ交換は見えないように行うなどの配慮を行っている。これら具体事例を月例ミーティングで話し合い、支援の仕方を検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が不安や要望を言えるように、個人に合わせてゆっくりと話をする時間を設けるように努めている。また「利用者視点のケアの実現」を今年度のテーマに、職員も視点を変えて取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	規則正しい生活は基本であるが夜更かしや寝坊にも対応している。外出やレクリエーションへの参加も無理強いはいしない。本人がどうしたいのか、またやってみてどう感じたのかも職員で共有するように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に応じた衣服を共に選んだり、衣類購入の際には一緒に買い物をしている。入居前からの行きつけの理髪店、美容院があれば、継続して利用するようにしている。身だしなみへの意識が弱くなっていくので、その方に合わせて必要な支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片づけを一緒に行うほか、郷土料理を一緒に作ったりお好み焼きを皆で焼いたり楽しみが持てるように取り組んでいる。他、正月にはおせち料理、夏には夏野菜やスイカやかき氷、秋の芋の子汁、クリスマスのケーキ等季節の食事を楽しんでいる。	献立や調理は、例えば、ひつまみなど利用者の希望等も取り入れて職員が手作りしている。沢庵、梅干し作りや餅つきなど、食材準備や後片付けも、手伝いが可能な利用者には、お手伝いをお願いしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や栄養の摂取量に配慮が必要な利用者については、食事やおやつ時に適量を摂取して頂くように声掛けや見守り、介助をしている。また、各利用者様の状況に応じ硬さや大きさ等に配慮し食事量は記録に残している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後もしくは就寝前に、一人一人の状況に応じた口腔ケアを行っている。必要に応じ適宜歯科受診をし義歯や口腔内衛生など口腔状態を良好に保つよう努めている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄のリズムを把握し、トイレへ誘導をしている。排泄に関する動作がわからなくなっている方へもなるべくトイレで排泄できるよう手順の声掛けをし、出来る限りオムツへの移行のないよう支援している。	利用者個々の毎日の排泄状況記録を活用し、排泄パターンの把握に努めている。利用者の表情や動作を観察して自尊心を損ねないようにさりげなく声掛けを行い、可能な限りトイレでの排泄が出来るように支援している。トイレは車いす利用者にも十分なスペースで整備されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルトや野菜、果物など食物繊維の多い食品等を積極的に毎日の献立に取りれている。また、水分不足にならないように補給する時間を設けるほか、日頃から運動する機会をもつように心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	定期的に入浴を勧めながらもお断りされる方、時間帯の希望のある方には、それに沿う形で対応している。	利用者の希望に沿って、ゆったりと入浴できるように時間調整をして支援している。当日の体調不良や入浴を拒否する利用者には清拭やシャワー浴、足浴等で清潔を保つように対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間眠れない利用者様には無理に寝かしつけることはせず話相手になったり、日頃から日中の活動を増やすなどしている。昼寝を希望される利用者様にはご自分の居室や小上りの和室で休んで貰っているが、時間帯も自由である。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	最新の処方薬のファイルを設置し常時確認できるようにしている。変更があれば申し送りにて目的、用法、注意などの情報共有を図っている。薬のセット、内服介助、終了の際にはスタッフが複数関わり再チェックを行い誤薬等がないよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事仕事や畑仕事、食材買い出し、趣味の活動等を一緒に行うことで役割や楽しみを持っていたけように努めている。出来る事はなるべく本人にやらせてもらう自立支援の姿勢を職員間で共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブは日常的に行っているほか、地域での催しものの情報を集めて興味のあるものへお誘い、外出している。またなじみの場所や自宅近辺の様子を見に行きたいとの要望に添い、出掛けるようにしている。	日常的なものは、徒歩による団地内の散歩や、週1回のドライブによる買い物、薬局へ薬を取りにいり、コンビニにコーヒーを飲みに行くことである。年間行事的なものは、花見、紅葉狩り、花巻空港の別腹フェアや航空ショー、ガス屋の記念会参加である。その他、回転寿司屋など外食の機会もあり、利用者から喜ばれている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には事務所にてお小遣いをお預かりし管理しているが、ご本人の希望とご家族の同意の下、ご本人とお菓子やコーヒーを買ったりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様からの了承を得た上で、今までの馴染みの方からの手紙や面会、電話等を受け入れている。また、手紙の返事や年賀状を書いたりする支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間兼食堂は台所を接し、調理する音やご飯の炊ける匂いが生活感として、リビングには行事の写真、七夕には笹飾り、クリスマスツリー、小正月の水木団子などを飾り季節感を取り入れている。職員の足音や物音がうるさく感じられる場合があるので、ミーティングなどで職員には注意をしている。	共用スペースである居間兼食堂は、天窓やガラス戸からの採光で自然の明るさを受け、開放感がある。パネルヒーターやエアコンを設置し、年間を通して快適な温度管理に努めている。壁に行事等を楽しんでいる思い出の写真を掲示したり、季節感を取り入れたほどよい装飾に心がけ、居心地の良い生活環境に配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	小上がりの和室や、食卓以外のホールでも過ごせるように椅子を置いたり昼寝用座布団を置いたりしている。ベランダ前は大きな窓があるため景色を見ながら利用者様同士がゆっくりお話しすることも多い。併設の小規模多機能のフロアへも自由に行くことができる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用の際には、ご家族に使い慣れた馴染みの調度品を持参して貰うように話し、ご家族とご本人、職員と一緒に片付けや飾りつけをし居心地良く暮らせるように工夫している。職員からの色紙やカード、家族の写真なども飾っている。	入居時に使い慣れた備品や持ち物、家族との思い出の品等を持ち込むことが可能であることを説明している。居室に整理タンスやハンガーラック、衣装箱等が配置されている。家族の写真や絵画を飾っている利用者も見られる。居室は職員と一緒に清掃をすることもある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室や玄関にはスロープや手すりを設置し、ベットには介助バーを取り付け安全の確保と自立の促進に努めている。1階と2階の移動には階段とエレベーターがあり、利用者の能力や状態に合わせて使用している。		